

知事との県民対話集会（飯綱町）概要

- ・開催日時 令和4年11月11日（金） 午前10時から午前11時30分まで
- ・会場 飯綱町役場 第2庁舎 第1～3会議室
- ・参加者 県民48名、峯村飯綱町長、阿部知事、中坪長野地域振興局長
- ・テーマ 豊かな農村社会の形成（りんご産地を守る、地域の食と農の継承、6次産業化・起業による地域活性化、移住×農業×子育て）

・主な発言（要旨）

【参加者】

- ・りんご狩りなど体験型プログラムの実施を通じてファンになってもらうことが販売を増やす上で重要。
- ・豊田飯山インターから飯綱町中心部につながる一般県道牟礼永江線（362号）を一日も早く全線がセンターラインのある道路にしてほしい。

【知事】

- ・国内外の観光客を惹きつけ、リピーターになってもらうためには、滞在型・体験型の観光を充実させないといけない。農家の皆さんには「来て楽しんでもらう」という観点も持ってほしい。
- ・道路について要望があれば、建設事務所や県民ホットラインを活用してほしい。すぐ取り組めるものはなるべく早く取り組むこととしている。一方で、予算が無限にあるわけではないので、優先順位があることをご理解いただきたい。

【参加者】

- ・農業従事者の高齢化により屋敷の周りの耕作地ですら荒廃してきている。小規模な自給的農業が持続されるよう人や環境、道路や農業用水に県の支援を行い、農業を誇る信州の里山を取り戻していただきたい。

【知事】

- ・人材不足は農業に限らず産業全般の問題である。人口減少は行政だけが取り組めばうまくいくものではなく、地域の皆さんにも移住者をあたたかく迎えることや、子育て世代を支える意識を持っていただきたい。県としても女性や若者に選ばれる長野県になるよう取り組んでいく。

【参加者】

- ・地域の食材を使った商品開発とそれに関わる人材育成をお願いしたい。
- ・北海道で行われている「地域フード塾」のような、地域の食材を観光と結びつけるような取組の実施をお願いしたい。

【知事】

- ・県内ではシードルを始め、クラフトビールやウィスキーなど幅広く製造されている。「日本酒ワイン振興室」という名称は変えたほうがいいかもしれない。
- ・「地域フード塾」のような取組は具体的に検討したい。
- ・飲食店や旅館などと農家をつなぐ必要がある。もっとオープンな場でつながるといろいろな可能性が広がると思う。

【参加者】

- ・東京から移住してきて感じたことは、長野県は東京と比べ四季がはっきりしている。移住の相談を受けると、長野県の豊かな自然を活かした教育に魅力を感じている人が多い。
- ・東京の大学生が長野に来て学べるよう、サテライトカレッジのようなものを誘致してほしい。学部は美術系が合っていると思う。

【知事】

- ・県外の大学で学んだ後、学生が県内に戻ってくることが重要である。
- ・教育委員会に対し、個別最適の学びを突き詰めてほしいとお願いしている。
- ・従前より、長野県にサテライトキャンパスを作りたいという学校があれば教えてほしいと文部科学省には話している。サテライトキャンパスの希望があれば支援したい。

【参加者】

・千曲市上山田温泉から上田市にかけての国道18号バイパス沿いのような住宅地が飯綱町にもできればいいと考えている。

【知事】

・地域のまちづくりを応援するUDC信州という組織を作った。居心地のよい空間やうるおいのある空間を作らないと人が集まらない。街の緑を増やす取組も始めている。引き続き、持続可能な地域づくりを応援してまいりたい。

【参加者】

・農業が抱えている課題は高齢化に伴う担い手の減少、耕作放棄地の増加、TPPによる価格競争と考えている。国が打ち出している対策は、農家個人や町、県では取組が困難なものが多く、国にさらに強力に取り組んでいただけるよう、県から要望してもらいたい。

【知事】

・一緒に飯綱町のリンゴ中心の農業をどうするか考えていくことが、まさしく共創と思っている。地元のものをもっと食べるとか、付加価値をもっと付けるにはどうするか、地域でお金が循環するような仕組みをどのように構築していくか、今後検討してまいりたい。

【参加者】

・リンゴの残渣を活用し、リンゴレザーを作っている。創業した者として思うのは、創業支援や地方創生という言葉がまだまだ県民に浸透していない。起業の取組が地域や住民に還元される可能性が高いことをもっと知ってほしい。
・知事の最近の発信はコロナばかりなので、もっと知事の考え等を発信してほしい。

【知事】

・社会的な課題を経営的・経済的に解決しようと取り組む社会起業家を県としてももっとサポートする必要がある。そういう皆さんが集える場として長野軽井沢サロンを先日開催した。この取組をもっと様々な地域で取り組んでいきたい。
・私自身の発信についてはおろそかになっていたので今後取り組んでいきたい。また、県全体の発信力向上にも取り組んでいきたい。

【参加者】

・かつての生活改善普及員のような、暮らしの課題を解決するための実践を指導する人材の育成が必要と感じている。
・これまでまじめに農業に取り組んでこられた方に光を当てるような取組も必要である。

【知事】

・主体的に学ぶ意欲を多くの方が持たれていると感じている。子ども達の教育もそうだが、大人になっても学び続けられる環境づくりをしっかりと検討して取り組んでいきたい。また、そのための人材育成にも取り組んでまいりたい。

【参加者】

・天然酵母パンやお惣菜を製造販売する店を経営しているが、食品加工場を作りたいと思っても規制が厳しく細かい区分けがされていて、小規模の農家が収入を上げるために食品加工をしたいと思うときに品目毎に規制があり、支障となっている。

【知事】

・国が規制しているところと県が規制しているところ、かつ規制している理由も確認した上で、また連絡させていただく。

【知事】

・飯綱町の取組は農業農村のモデルとなり得ると感じた。今後、飯綱町の取組が一層進むよう、町長とも相談しながら県が何かしらのモデル地域に指定するなど、県も一緒に進めてまいりたい。